

大規模災害協定に基づく連絡会（始良・伊佐ブロック）議事録

日 時：令和5年5月15日（月）14:30～15:30

場 所：始良・伊佐地域振興局 本館4階第1会議室

参加者：11名

始良・伊佐地域振興局	北園 哲也	建設部長
	小倉 孝一	河川港湾課長
	中山 昌樹	土木建築課長
	上田 猛志	技術補佐
	前原 和寛	技術調整係長
	中山 文人	伊佐市駐在参事
測量設計業協会	安永 幸信	会長
	中島 勝弘	理事（担当責任者）
	中西 修	理事（担当副責任者）
	徳永 博幸	連絡責任者（正）（㈱中島測量設計）
	長坪 芳幸	連絡責任者（副）（霧島エンジニアリング㈱）

1. 北園哲也建設部長より挨拶
2. 安永幸信会長より挨拶
3. 前原和寛技術調整係長より資料の説明
4. 中島勝弘理事より資料の説明
5. 意見交換

地域振興局・・・管内図で管内の道路、河川の説明。

地域振興局・・・昨年は支援要請はなく令和元年2年3年とあったが、役所側が求める過度なものとかはなかったか。

測量協会・・・過度なものとかはなかったが、現場に入ってみて倒木や土砂が多く先に進めなくてたいへんな所とかはあった。

ドローンを現場で使う機会も増えた。

マンパワーが不足している。若い人が入社しても技術系でない人もいる。

安全をしっかり確保しなくてはならない。

地域振興局・・・ドローンを使用する場合に単価はあるか。

測量協会・・・単価はある。整備されてきた。全体把握と安全確保にはドローンが便利。

安全は確保できるが長い時間は飛ばせない。

せいぜい10分から15分くらい。

360度カメラは便利である。

九州地方整備局では作業前に提案してドローンの単価を見てもらうようになってきている。

地域振興局・・・過去の災害で実際にドローンを使用して金額変更とかあったか。

測量協会・・・2年前の北薩の災害ではドローンを使った。

ドローンを使って写真を撮っても金額変更の対象となったことはない。

地域振興局・・・協定がどのレベルまでどこまでを求めているか。

一歩進んで2度3度現場に行くより、1回で済んだ方が効率的である。

継続的な課題ではあるが費用を伴うことを今後位置づけて行きたいと思う。

測量協会・・・地整でも机上査定というのがあって査定は省力化されるけれども、測るほうは現場に2回行かなくてはならない。1回で済ませられるものであったら費用の面でも安心安全のためにも1回で済ませたい。

地域振興局・・・ドローンは風の影響とか受けないか。

測量協会・・・風の影響は受ける。ドローンにG N S Sが付いているので撮ったところのX Y Zのデータがでる。風が強い時は飛ばさない。

測量協会・・・令和3年度はドローンを飛ばして河川災害箇所の被災確認には便利だった。

初期の調査には便利。実施設計での使用となると費用面とかで支障となる。

今までは河川台帳の地図を見ながら現地を歩いて確認とかしていた。

D X 査定の講習会は地整でも進めているが、静岡県はデジタルデータが進んでいる。災害発生時には流出した土量とかすぐわかる。

地域振興局・・・伊佐市駐在ではR 2の災害時はデータの要求が協会よりあったが技術センターから取りよせるので時間がかかったりした。R 3は実績があったのでデータのやり取りはスムーズにいった。R 2は範囲が中心より北側に偏っていたのである程度特定することが出来たがR 3は特定することが出来なくて広範囲にお願いすることとなった。

測量協会・・・全社が災害の仕事が出来るよう配慮している。評価点にもなる。

災害講習会を受ける人数は毎年増えている。

地域振興局・・・協会員は33社か。

測量協会・・・全部で55社。そのうち33社が始良伊佐を希望という形である。

地域振興局・・・管内では3年災害が続いた。今年はないことを願う。

